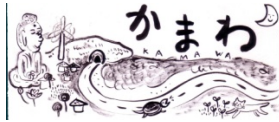


あわのわ
コミュニティカフェ&マーケット
鴨川



鎌倉



葉山



藤野



都留



たま

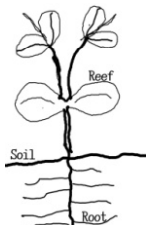


トランジション・タウン

地域の力で、持続可能なまちへ移行する



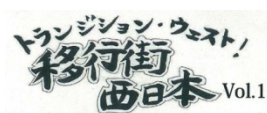
小金井



南阿蘇
大津
福岡



世田谷



奈良ぼん 大阪 京都



能登川



遠州浜松 豊橋 高尾 渋谷



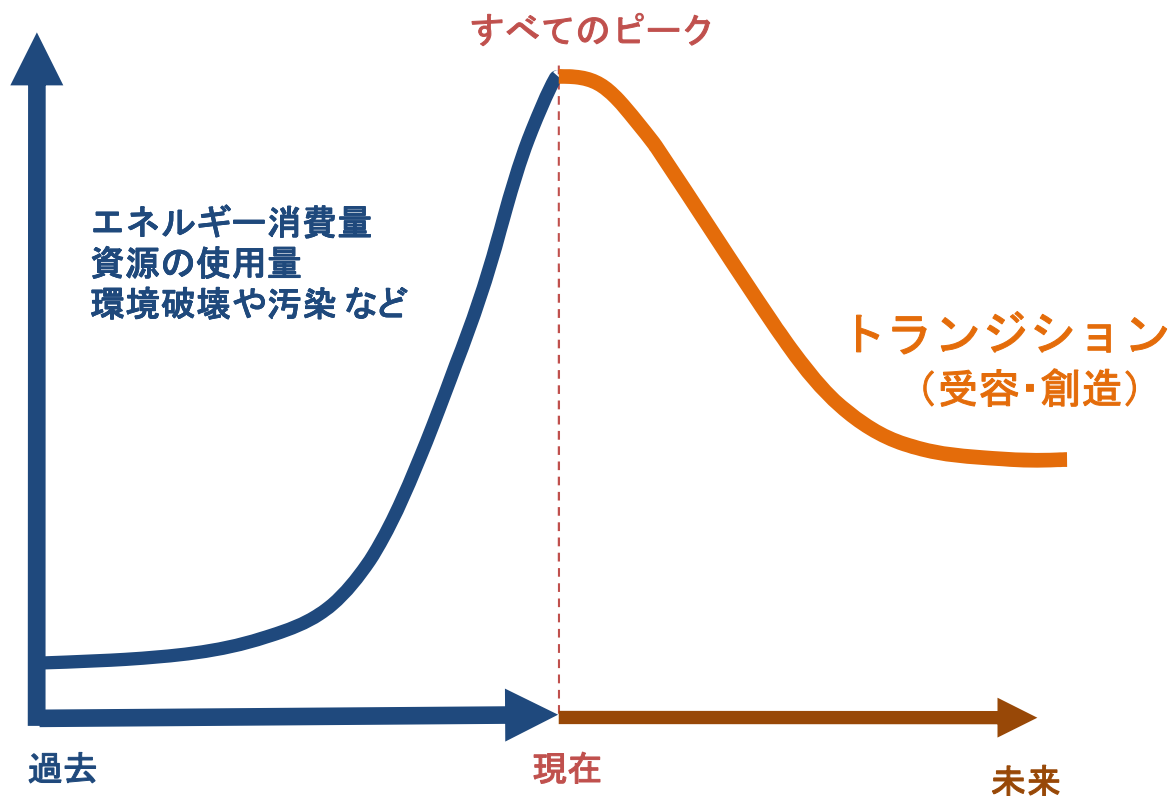
相模湖

🌱 トランジション・タウンとは

トランジション・タウン(TT)とは、ピークオイルや気候変動などの地球規模の環境危機を乗り越えるための、草の根運動の一つです。私たち市民自らの創意と工夫、そして地域に根ざしたコミュニティの力を活用し、本当に暮らしやすい、持続可能な社会へ移行（トランジション）していくことを目指しています。

🌱 ピークオイルとは

今、私たちは安くて大量の石油に依存して暮らしています。しかし、世界の石油生産量はこの数年の間にピークを迎えると言われていて、今までと同じ生活形態を維持することが、いずれは困難になる可能性があります。このピークオイル問題は、現代社会に迫る危機の一つの象徴です。私たちの世界は、地球温暖化、生態系の破壊、経済的格差、人々の心の危機など、さまざまな問題を生みだしています。資源を浪費し、経済成長を追い求める、近代以降の産業社会が、このままの形では持続不可能であることを表しています。



🌱 トランジション・タウンが描く未来

トランジション・タウンは、現状を素直に受け入れ、暮らしをゆるやかにスローダウンさせることで、自発的に持続可能な未来を創っていく活動です。

「私たちが、自らの想像力を駆使して、創造的に考えるなら、
石油のない未来は現在よりも、むしろ良い社会になるかもしれない」
ロブ・ホプキンス

トランジション・タウンの起こり

トランジション・タウンは、2005年秋、イギリス南部の小さな町トットネスで、パーマカルチャーの講師、ロブ・ホプキンスを中心に始まりました。関心と情熱を共有する人達が集まり、立ち上げグループが結成され、映画上映会、暮らしの基本的技術再習得講座、自然エネルギープロジェクトなどを企画し、また地域通貨を発行しました。関連団体、企業、行政などとも協働関係を築き、トランジション・タウン運動は、瞬く間に地域を巻き込むことになりました。



英国トットネスでの暮らしの技術再習得講座の事例

スキルを増やしてエネルギーを減らそう講座

- ピークオイルと気候変動、パーマカルチャーの原則、食、エネルギー、住まいと建築、森林、水、ゴミ、経済、変化の心理学 など

野外での食糧探し

自分の食べものの栽培

在来種保存

自然建築

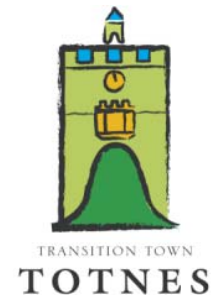
手作り塗料

ストーブ作り

森の手入れ

パン作り

自転車の維持管理 など



英国トットネスでのプロジェクト事例

ガーデン・シェア

市民農園

ナッツの木の植樹

種と植物の交換会

地域社会の健康と福祉の農園

ホーム・グループの結成

エコ住宅のツアー

コンポスト・トイレの建設

地域の代替医療リスト

地域の食ガイド

太陽熱コンテスト

サイクリング・グループ

地域通貨（トットネス・ポンド）

再生可能エネルギーに関するイベント

不要品交換所

ビジネス向けグリーン・エネルギー導入促進

トランジション物語

持続可能な漁業

エネルギー消費削減行動計画 など



日本のトランジション・タウンの始まり

2004年に神奈川のパーマカルチャー塾を通じて知り合った仲間たちが、2008年春、イギリスで、ロブ・ホプキンスの講演を聞いて深い感銘を受け、彼が創始したトランジション・タウンの活動を、日本でも広げていくことを決意しました。2008年6月には、トランジション・ジャパンという団体を設立し、トランジション・タウンを広める土台づくりに着手。そして、2008年秋から2009年初めにかけて、神奈川の藤野、葉山、東京の小金井を皮切りに、日本のトランジション・タウン活動が始まりました。各地でTTが立ち上がり始め、2011年5月現在、23の地域にまで広がっています。

トランジション・タウン = TT = 楽しくつながる

日本のトランジション・タウンは、TT = 楽しくつながる、をキャッチフレーズに、3人集まれば始められる、という立ち上げの容易さもあって、各地にじわじわと広がっています。各タウンとも、英国のモデルをそのまま真似するのではなく、日本におけるトランジションのあり方を模索しています。基本的な部分での意識は共有しつつも、進め方は地域や人によって独自性を持っていて、多様性のある展開をしています。

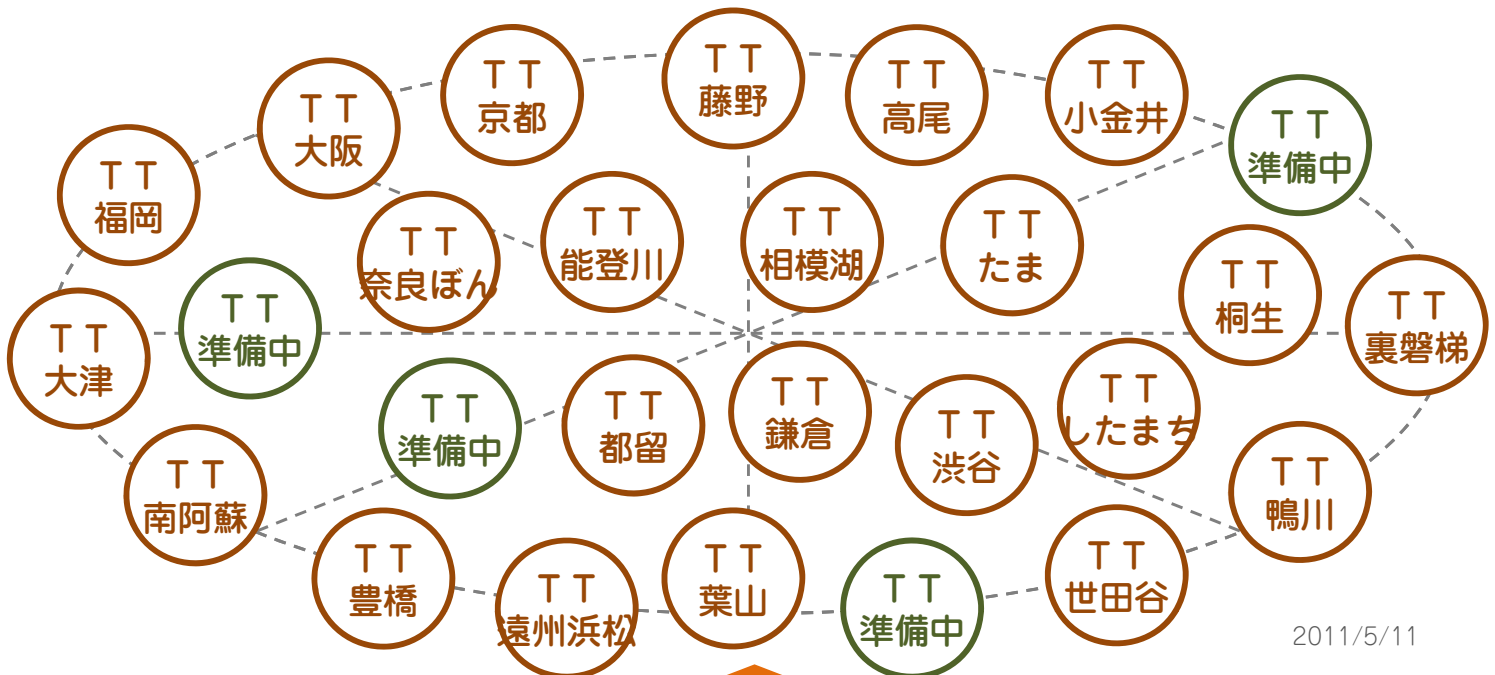


日本のトランジション・タウン活動事例

- ・地域通貨： 鴨川、葉山/鎌倉、藤野
- ・地域マーケット： 鴨川、葉山/鎌倉
- ・自然エネルギー： 藤野、葉山、世田谷、他
- ・有機農/自然農： 鴨川、都留、相模湖、南阿蘇、他
- ・保存食づくり： 藤野、相模湖、たま、他各TT
- ・映画上映会： 藤野、葉山、鎌倉、世田谷、他各TT
- ・環境NPO： 都留、小金井
- ・行政と連携： 都留、小金井、鎌倉、葉山
- ・説明会/WS： 小金井、奈良、浜松、能登川、他各TT
- ・出張授業： 鎌倉
- ・自然育児/太鼓： たま
- ・医・健康： 藤野、葉山、渋谷、他各TT
- ・みんなで料理： 相模湖、たま、したまち、他各TT
- ・地域を知る： 藤野、葉山、したまち、他各TT
- ・住まいづくり： 藤野
- ・手作りワーク： 南阿蘇、相模湖、他各TT
- ・カフェ/Bar： 各TT
- ・かわら版： 藤野、葉山、世田谷
- ・ブログ/メルマガ： 各TT
- ・メーリングリスト： 関西、九州、他各TT



日本のトランジション・タウン ネットワーク



2011/5/11

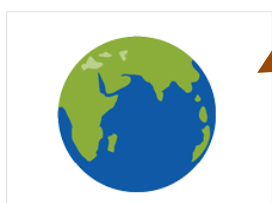


サポート

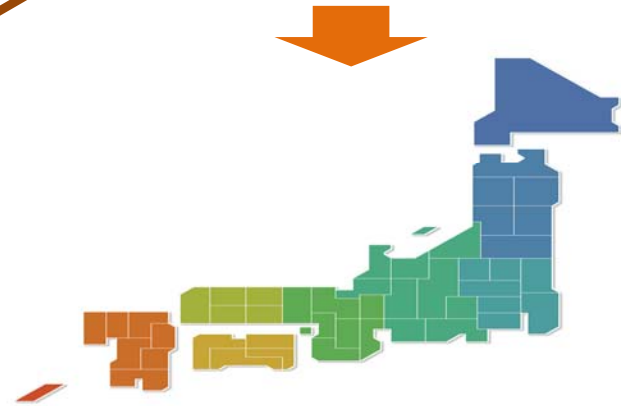
トランジション・ジャパン

コンタクト

普及・啓発



Transition Network.org



NPO法人トランジション・ジャパン (TJ) とは

- ・日本各地のトランジション・タウンのサポート役として、
メーリングリストでの情報共有、ネットワーク・ミーティングの開催、
トランジション・トレーニングの開催、立ち上げ支援などを行っています。
- ・日本のトランジション・タウン運動の普及・啓発役として、
説明会の開催、各地説明会への講師派遣、メールニュース発行、
夏フェスの開催、各種イベントへの参加、執筆・翻訳などを行っています。



Point 1: みんなで問題を考えよう

映画上映会などにより、みんなで問題意識を高めます。日本のトランジション・タウンでは、『エンド・オブ・サバーヴィア（郊外生活の終わり）』『コミュニティの力（キューバ）』『懐かしい未来-ラダックから学ぶ』『エンデの遺言』『ミツバチの羽音と地球の回転』などの上映会が各地域で開かれています。



Point 2: 創造的なミーティング

創造的な対話のために、オープンスペーステクノロジー(OST)という手法がよく使われます。参加者が出し合ったテーマごとにグループに分かれて話し合い、参加者はテーマを自由に移動できます。誰が参加しようと、それは適切な参加者であり、何が起ころうと、それは起こるべきことです。



Point 3: テーマ別活動グループの形成

トランジション・タウンの活動は、食、農、エネルギー、住まい、経済、教育、福祉、健康と医療、芸術、心など、あらゆる分野に関連しています。そのため、テーマ別に活動グループを形成して、具体的な活動を実践していきます。



Point 4: 暮らしの技術再習得、目に見える実例づくり

日本の地域TTでは、ソーラークッカーの実演、生ごみ処理ボックスづくり、コンポストトイレづくり、有機や自然農での畑や田んぼ、セルフビルドでの家づくり、味噌や保存食づくり、天然酵母のパン教室などに、各地で取り組んでいます。暮らしの基本的技術を再習得するとともに、循環型、低エネルギー、手作りの暮らしの、目に見える実例づくりを目指しています。



Point 5: 必要でない人はいない

トランジション・タウンの活動には、あらゆるスキルが必要です。聞き手、園芸家、作ったり修理するのが好きな人、パーティ、話し合い、刺激的な芸術作品や音楽、エネルギー技術者、建築家、プランナー、プロジェクトマネージャー、などなど。自分が情熱を持っていることで貢献します。



Point 6: 内なるトランジション

TTでは外側の世界だけでなく、人の内面のトランジションも扱います。

- ・外なる世界を形づくっている内なる信念は何か？
- ・なぜ私たちは自滅的な世界をつくってしまったのか？
- ・なぜ目を覚まして何かしようとししないのか？

そのような問いかけに、一人一人が答えを探していきます。



Keyword 1: パーマカルチャー

パーマカルチャーとは、パーマネント(永続的な)とアグリカルチャー(農業)、またはカルチャー(文化)を組み合わせた言葉で、1978年にオーストラリアで生まれた、持続可能な暮らしのデザイ体系です。自然のシステムをよく観察し、伝統的な農的生活の知恵を学び、そこに現代の適正技術を融合させます。植物、動物、建物、水、エネルギー、コミュニティなど、生活全てをデザインの対象にしています。それぞれの要素が、それぞれの役割を十二分に果たし、互いを搾取したり汚染したりすることなく、かつ経済的にも成り立つエコロジカルなシステムを作り上げます。それは自然を豊かにし、人の生活の質をも豊かにします。

英国トットネスのロブ・ホプキンスは、ピークオイルを過ぎた世界は緊急な対応に迫られていると考え、自身が講師をしていたパーマカルチャーの手法を応用して、トランジション・タウンを始めました。また、日本でTTを始めた人たちも、神奈川県藤野のパーマカルチャー塾で学んだ人たちでした。そのため、日本の地域TTは、各地のパーマカルチャー塾修了生のネットワークを中心に広がり始めています。



Keyword 2: ローカル化

行き過ぎたグローバル化が、一握りの人に富を集中させ、貧しい人をさらに貧しくしています。また、回復不可能なほどの自然破壊や、エネルギーと資源の大量消費を引き起こしています。そのような事態をくい止める道が、ローカル化です。ローカル化とは、生産と生活をできるだけ身近な地域内で行うことであり、コミュニティのつながりを深めることです。また、生産者と消費者の距離を縮め、顔の見える関係の経済を取り戻すことでもあります。トランジション・タウンは、このローカル化のひとつの形です。

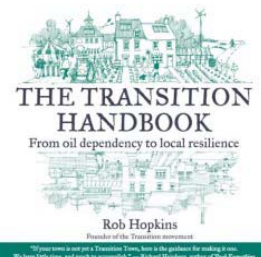
Keyword 3: 地域通貨

地域通貨とは、地域内での信頼関係によって物やサービスを交換する手段のことです。地域の一人ひとりが、それぞれの経験・知識・技術などを提供しあい、お互いに助けあうことができるしくみです。日本のトランジション・タウンでは、鴨川で2002年に発足した「安房マネー」、TT葉山とTT鎌倉の「なみなみ」、TT藤野の「よろづ屋」が運営されています。



Keyword 4: レジリエンス

ローカル・レジリエンスとは、「地域の底力」のことであり、「たとえ外界に大きな変化が起きても、パニックを起こす事なく、その場しのぎもせず、柔軟かつしなやかに対応する力」です。ロブ・ホプキンスの著作『トランジション・ハンドブック』のサブタイトルにも使われている言葉です。



安くて大量の化石燃料に
たよりきった弱いまちから



地域をベースにした
しなやかで強いまちへ

Transition Town

from Oil Dependency to Local Resilience

～ TTスピリット ～

依存から自立へ
部分から全体へ
分断からつながりへ
コントロールから自発性へ
GetからCreateへ
除外から包括へ
恐れから実行へ

トランジション・タウン リーフレット

2011年5月11日 第3.6版

編集・発行：NPO法人トランジション・ジャパン

www.transition-japan.net

transitionjapan.cocolog-nifty.com